

2012年3月東京理科大学基礎工学部卒業アルバムによせて——「今を語る」

タイトル：Be fair, be happy（フェアであれ、しあわせであれ）

基礎工学部生物工学科・山登一郎

ご卒業おめでとう。若い世代の活躍を期待している。

最近世界で事件・事故が多い。そんな世界情勢に絡んで、皆さんの今後の人生を思い、先輩として参考になるかなと思うことを、一つだけお話しする。

私はずっと基礎的・原理的なことから物事を理解したいとやってきた。そうして良かったと思う。だから皆さんにもそうして欲しいと願ってきたし、今も願う。本学出身者は皆理系、分析・帰納・演繹等、理系の方法論に親しんだ。今後はこれまでの文系も理系と同じになるはず。これからは理系の活躍の時代だ。話はそのことに絡む。

定年間近、本学に雇われて良かったのか？まあ、悪くはなかった（人は自分の人生を肯定したがる！）。何故か？一言で言えば、自分にとってフェアに生きて来られたから。そう、皆さんにお話ししたい一点、それはフェアであること。実にその由来（原理）をこの大学で学んだ。生涯の恩師とも呼べる人との出逢いがあったからだ。（60歳近くになって、こんな素晴らしい人に出逢えるなんて、人生捨てたものではない。）彼は少し先輩、10年前本学に移った。以来沢山のことを教わった。その第一が、”フェア”の由来である。何故フェアでなければならないのか、それをお話しする。

世の中競争時代。アンフェアがたくさんある。自分もアンフェアを犯す。でも、フェアに固執すべき一線はあろう。

キリスト教世界では神との契約で生きている。だから神との契約に対してフェアであるべきと考える。宗教一般そうかもしれない。日本ではどうか。宗教がないと言われる日本でも、フェア感覚はある。何に対してか？ハーバード大サンデル教授の正義の講義も面白い。その裏にはキリスト教の神がいるようである。私の場合の裏を一言で言えば”核酸”である。

46億年前原始地球に隕石が降り、中に有機物、核酸のもとがあった。その核酸、RNAに近い形に繋がり、自己増殖する生命に近づいた。核酸エイリアンが地球侵略を企てたのだ。膜をまとって、細胞になった。遺伝物質としてDNAを採用、多細胞、ほ乳類、ヒトへと進化した。そして地球をこの生命体が覆い尽くし、支配してしまった。エイリアンの地球侵略大成功である。

500万年前ヒトはサルから進化した。50匹規模のサルの集団、樹上採集生活から、気候変動により生じたサバンナでの狩猟採集生活を余儀なくされた。その生活状況に適応すべく進化して協調性を獲得した。ヒトである。つまりヒトの本性は協調性だと言って過言ではない。

生命体の生き残り戦略は、どうだろうか。囚人のジレンマというゲーム理論がある。昔の地球、資源は無尽蔵、無制限下の囚人のジレンマゲームである。すると”いい人”戦略が普遍的になる。ドーキンスのいう『利己的な遺伝子』が採った戦略である。利己的戦略もあり得るし、一定割合存在する。が、当然皆が得する方が繁栄するだろう。（だって胴

元は無限のお金持ち、皆で山分けするのが一番いいだろう。) 生物多様性もそんな戦略のお陰なのだ。人も、お互い得し合って繁栄した。制限下ではどうなるだろう。50人規模であっても、生き残るために利己的な動物性丸出しの争いが生じよう。それが生命だ。

フェアであるべきことの由来、お分かり頂けるだろうか。それは生命体が地球上に生まれ、核酸がある種の意志を持っているが如く地球支配の手を着々と進めたことに起因する”生命体は結局仲間なんだ”という感覚、そして地球上で繁栄するためのいい人戦略、特に進化して生まれたヒトの本性としての協調性に由来しているはずである。キリスト世界で言われるような神との契約などでなく、人がヒトとして生まれたことに由来する意識である。生命体仲間が共に繁栄するという目標に対して合うのか反するのかが、フェア、アンフェアであると思う。つまり、ヒトは生命体として共存共栄すること＝フェアであること、を自然に求めるべく生まれついたのである。

生命体としてはしあわせを求める。幸せとは、ヒトの場合も自分の感情に素直であることのはず。生き物として食欲や性欲がある。各種の欲を満足させるとしあわせである。そしてヒトの本性には協調性も加わっている。その協調性を満足させるとやはりしあわせに感じるはずだ。つまりヒトとしての素直な感情(進化でヒトとして生まれたことに由来する)に正直に行動する、するとしあわせである、そしてそれが結局はフェアだと思う。ここでは宗教も神も要らない。

ところが、である。遊びの得意なヒトは発明も得意。1万年前農耕定住生活の大発明をした。富の蓄積、貧富の差、階層化が生じた。制限が厳しくなると、利己的戦略、殺し合い、戦争となった。ヒトらしさの全否定的な行動である。その後よくご存じの現人間中心主義に繋がる不特定多数の中の自由競争社会を作ってしまった。貨幣も、物々交換の代用としてではなく、減価償却しない特別なものとして機能させてしまった。金万能主義の出現である。本来、ヒトはものを生産して自分や周りにメリットを配り、それを喜びとした。協調主義のいい人戦略である。しかし、結局今や競争社会、世間の富や地位や名誉などの獲得には、アンフェアを必要とすることが多い。またまた尊敬する先輩から、山本周五郎も教わった。その中の好きな言葉「貧しい人たちにこそ真実がある」。本当にそうだと思う。だからといって富や地位を拒絶しろとは言わない。でも一番には、自分が生き物の一種のヒトであることを自覚して、素直にヒトとしての自分の感情に従うこと、するとしあわせであり、それが実はフェアに繋がるはず。そんな”フェアに繋がる感覚”(つまり自分は地球上のすべての生き物と繋がって生きているという自覚＝セーガンとドルーヤンの本の題名『はるかな記憶』)に心静かに耳を澄ませてみて欲しい。私は、「あー、そうになっていたのか。だから私も”フェア”を第一義にしたかったのだ、それが結局はしあわせだったのだ」と納得したのです。だから皆さんにも、人としてヒトであり続けて欲しいと願う。

さて、フェアについての話は終わり。世界で事件・事故が目白押し、今年も大変だった。3.11 東日本大震災、福島原発問題、大型台風による洪水や土砂崩れ。世界的にも、イラク・アフガンのみでなく、アラブの春(民主化革命)、ギリシャ危機、ニューヨークウォール街デモに始まる世界的な反格差社会キャンペーン、タイ洪水、世界人口70億人突破など、世界人類が行き詰まり状況である。今12月、来年3月まででも何事が起こるやら。今や地

球資源は枯渇、未曾有の制限下の囚人のジレンマゲームに突入しつつある。また戦争か？生物多様性は大丈夫か？テレビのコメンテーターも「人類の在り方が問われている。新しい理念が必要である」と説く。しかし、その理念やモデルは何も提案しない。誰も正解を持っていないようである。宇宙からの核酸エイリアンの優秀なる(?)末裔として、私たちヒトはどんなシステム、体制を構築すべきなのだろうか。実は、上記の原理を基に考えれば、論理的な答えが明らかなはず。理系出身者の活躍を期待する。

スティーブ・ジョブズも今年亡くなった。彼の言葉、*be hungry, be foolish*。これは *American dream* に対しての云いのように思う。私の好きな言葉、Westheimer の *Progress is made by young scientists who carry out experiments old scientists said wouldn't work*、でも自分が歳取ったのでだんだん嫌いになってきた。そしてむしろ今は締めくくりとして、*Be fair, be happy! Or be honest to yourself, then (will) be fair and (shall) be happy!*